

2016年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2017年4月24日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 小林猛久

研究プロジェクトの名称 大学・企業相互関与型の地域密着人材育成システムの構築と実践 <div style="text-align: right;">(1年目)</div>			
研究目的 大学と地域と行政が連携して人材育成と地域活性化を推進するプロジェクトを支援する組織の確立を目指し、[1]「連携プロジェクトスタートアップの研究と実践」、[2]「連携プロジェクトの継続・常設化を実現する研究」を行うとともにその客観的な評価と成果に関する公表を通じて、具体的な実践事例を全学的な地域連携モデルとして伝播をしようとするものである。			
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)			
岩本陽児	教	山田 貢	共
倉方雅行	教		
堂前雅史	教		

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)

2016年5月20日(金)から22日(日) 「第47回花と緑の市民フェア」 (等々力緑地催し物広場) 参加
 万福寺人参を使用した、ケーキの試験販売を実施
 人参ケーキの製造は、パティスリーエチエンヌさんに依頼。人参のピューレ、ケーキの裁断、ラベルデザイン、パッケージ、販売、本企画・協力依頼などを学生が担当。

2016年12月23日 万福寺人参品評会参加 (主催：里山フォーラムin麻生/麻生区生涯学習支援課)
 「よく、掘ったでしょう」授賞 参加学生5名

毎月、第1金曜日の18:30から20:00
 和光大学と岡上地域の発展や教育などの連携に関する相談会を開催。
 研究担当者以外にも、適宜岡上地域の住民の方と情報交換を行った。

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

共通教養科目「地域デザイン」の授業における活動をひとつの柱としたが、課外活動として授業外でも学生たちの参加を加えるとともに、生涯学習活動として地域市民の方々も岡上の活性化（農業支援）のプロジェクトに加わることができるような試みを行った（学生とともに学ぶ授業として参加者を募集し、2名であるが社会人参加者を得た）。この成果により、普段から、責任感をもって業務を遂行するという雰囲気が高まり、夏休み等の長期休業中にも当番制を導入して定期的に活動するという継続てきな体制を組むことに成功した。

また、地場産品としてアピールすることを想定している禅寺丸柿を始めとして、岡上地域で栽培されている、野菜や果実をつかったエールビールの試作をした。

結果として、ブルーベリー、ビワ、かぼちゃ、トマト、さつまいも、ゆず、みかん、キュウイ、禅寺丸柿など多様なエールビールの製造を、学生と連携分担者の農業生産法人株式会社カルナエスト、ムーンライト株式会社が加わった産学連携により実現した。

そして、次年度にはセレサ川崎とも連携して、マーケット調査、商品開発、販売を実践することはもとより、その活動原資をクラウドファンディングの利用によってビジネスとして成立させることまでを明らかにする予定を策定している。

学生たちは、これらの活動を通して、原価計算・コスト管理の重要性と適正価格による販売（安さだけを追求する危うさ）を実感し、実社会で通用する販売戦略を構築するために必要な学びを積極的に行おうとする変容が見られ。このことは、実体験型学習の教育効果研究に大きな示唆となった。今後は、他の授業や実習などでの学びとの連携も調査すると共に、学生達の前向きさや積極性といった意識・態度や知識や技術の向上などについて具体的な調査を行い、それらが人間力・社会人基礎力などの養成に役立つことを明らかにしたいと考えている。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2016年4月～2017年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

「日本における農業6次産業化の現状と将来の展望」、小林猛久ゼミナール、『貿易論叢』第59号、pp5-pp15、2016年。

※ 提出期限=2017年4月28日（金）提出先=企画室企画係（担当：奥名）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけワープロで記入し、e-mailで送信してください。

※ kikaku@wako.ac.jp（企画係）